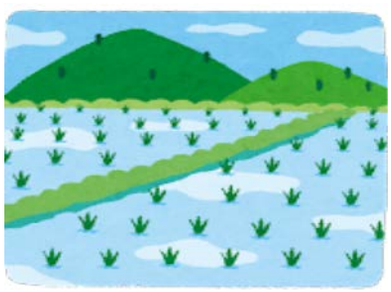
伊木　真由子

農地や里山を活かした町の活性化

問 本町の抱える課題の一つとして、人口減少や農地の荒廃がある。町は農業を新しい形に展開することで町内の活性化を考えている。私は課題解決の一つの方法として、農地を含めた豊かな自然環境や生物多様性、誇る里山を活かした能勢ファンを増やすことで、今後の活路を開けるのではないかと考える。また能勢ファンから移住に繋がった方が新規就農者であり、本町には農業を生業としたいと考える新規就農者が多数来ている。新規就農者の現状と課題についての認識を問う。

答 新規就農者の団体として青年農業者クラブがあり、昨年度末で28名活動している。売上額の向上や安定的な経営に向けた販路拡大、そして一番大きな課題としてストック的財産がないことだと考える。例えば機械・土地・作業小屋・人脈・知り合いも少ない中で農業を始め、生計を立てていくことは難しい。課題克服には、個人で取り組まなければいけない問題や行政としてどこまで手伝えるかがあると思う。



問 本町が行っている半農半Xへの支援は。

答 農家民泊や体験農園、観光農園の事業開始希望の方への国の支援制度の紹介を行っている。

問 本町の販売農家の多数が兼業農家であり、減少傾向にある。兼業農家継続が困難な理由についての認識は。

答 耕作者の高齢化や後継者不足により営農が困難な状況にあると考える。

一般質問

平田　要

一、高齢者等に対応する移動ニーズ
二、豊中市消防局がめざす「救命力世界一」宣言を受けて

高齢者等に対応する移動ニーズ

問 町内の高齢者免許返納者数を問う。

答 平成29年度110人、30年度77人、令和元年度12月時点137人である。

問 令和元年度に示された「より良い地域交通の在り方について」の検討状況について問う。

答 地域住民やバス事業者等との意見交換を通じ現状把握に努め、高齢者の移動支援としてドア・ツー・ドアの需要が高まっていると認識している。公共交通を取り巻く環境は厳しさを増している中で、令和2年度の予算に新しい交通システム導入に向けた調査費を計上している。具体的な取組みの方向性を示していきたい。

問 ドア・ツー・ドアの実証実験事例がある。参考にしてはどうか。

答 先進事例に倣い、会議を設置し新システムを構築していきたい。

豊中市消防局がめざす「救命力世界一」宣言を受けて

問 町のドクターヘリとドクターカーの実績を問う。

答 ドクターヘリが年間平均約30件弱、ドクターカーは20件弱で推移している。

問 豊中市の世界一の救命力とは。

答 普通救命講習終了者数の人口に対する割合や救急救命士や救急車の台数に加え、豊能二次医療圏域、吹田市を含む4市2町には高度な救命措置を担う医療機関が充実していることなど、総合的に基づき示されている。

問 町が救命力を高める取組みについて問う。

答 普通救命講習等の積極的な参加を始め、住民の救命意識向上のソフト面の強化と成人病予防等の健康管理と認識している。

■新消防庁舎イメージパース